

---

## 【劇場版 after 】 水平線上の陰謀

あこ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

【劇場版 after】 水平線上の陰謀

### 【Nコード】

N1757M

### 【作者名】

あこ

### 【あらすじ】

沈みゆくアフロディーテ号から脱出したコナン達。

蘭の胸にかけられた「金メダル」にコナンが感じたこととは？

「人を想いやる心」がテーマの『水平線上の陰謀』のアフターストーリーです。

「よかったよ、あいつらがいてくれて」

オレは、元太たちと蘭の笑顔を見ながらそう呟く。

蘭の胸元で輝く、貝殻で出来た金メダル。

アレは、空手の関東大会で優勝した蘭への、元太、光彦、歩美、灰原からのプレゼントだった。

あまりに素っ気なかったオレ（新一）の変わりに、オレ（コナン）抜きで作ったものと灰原が教えてくれた。

「何考えてるの、工藤くん？」

「ああ、ちよつとな」

オレの目線の先にあるものを見た灰原は、「なるほど」と小さく呟いた。

「あいつら、いい奴らだよな」

「そうね」

そう、小さく答えた灰原は、遠い目をした。

恐らく、ツインタワービル的事件を思い出しているのだろう。

あの時、あいつらがいなかったら、きっと灰原は今、ここにはいなかったかもしれない。

あいつらの屈託なく、誰にでも向けられる優しさに、オレや灰原、そして蘭も助けられてきた。

蘭が記憶喪失になったあの時も、事件の調査をするオレに変わって、蘭のボディガードを買って出てくれた。

オレに内緒で勝手にトロピカルランドに行ったことについては、納得がいなねえが。

「なあ、灰原。こういう時ってやっぱり」  
「そうね」

灰原には、オレが言わんとしたことが分かったらしい。  
「言ってくれば？」と背中を押してくれた。

「よー！」

話の切っ掛けを掴むために、まずは話に入り込む。

「あ、コナンくん。無事でよかったよ」

「ホントですね。コナンくん、いきなり水上バイク走らせるんですから、ビックリしましたよ」

歩美と光彦の、心配と安堵が混じった声に、申し訳なくなった。

探偵の性で、飛び出していったことで、心配をかけてしまっていたことを、オレは今更ながら気付かされた。

「でも、よかったよなコナン！」

元太の言葉に、みんなの頭に「？」の文字が浮かぶ。

「どういうこと？」

今までオレたちの会話を、笑顔で聞いていた蘭が代表して尋ねた。

「だってよ、コナンが船に戻らなかつたら、蘭姉ちゃん、閉じ込められたまんまだったじゃんかよお」

そう言い放った元太の言葉に、衝撃を受けたような表情をした光彦と歩美。

ただ、当事者の蘭は、逆に笑みを浮かべていた。

「私、ずっと思ってた。きっと新一が助けに来てくれるって。ここにはいないけど、そんな感じがしてた」

「（蘭）」

「ありがとね、コナンくん、助けに来てくれて」

「うっん、そんなことないよ！」

笑顔で返したオレに微笑み返す蘭。

だからオレも

「こつちこそ、ありがとう。蘭姉ちゃん！みんなも、ありがとな」

「ど、どうしたんですか？！コナンくん！」

「突然『ありがとう』なんてコナンくんらしくないよ？」

「何か悪いもんでも食ったのか？」

ま、突然礼を言うなんてオレらしくもないな、と思いながらも、その意味を語る。

「これだよ」と、蘭の首にかけられた貝殻の金メダルを指差した。

「こいつのお陰で、命助けられたからな」

そう、この金メダルこそ、蘭とオレを繋いだ“命綱”そのものだった。

この“命綱”と蘭のお陰で、オレは今ここにいる。

「だからありがとう」

オレの感謝の言葉に、戸惑いの表情を見せていた、元太、光彦、歩美に漸く笑顔が浮かぶ。

「勿論、灰原もな！」

離れた場所で、オレたちの様子を、窺っていた灰原にも声をかけた。そして、みんなの視線が、蘭の金メダルに向く。

どんな金メダルよりも、オレの目には、輝いて見えた。

END

## （後書き）

初の「劇場版 after」です。

この短編は、別サイトに掲載したものを再録したものです。

なので、「見たことある！」って人がもしかしたらいるかもしれませんが  
せんね（笑）

順番通りに書くのがセオリーなのですが、好きな「水平線上の陰謀」  
を練習がてら書いてみました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1757m/>

---

【劇場版 after】 水平線上の陰謀

2010年10月11日08時38分発行